

# 運 輸

## 1. 評価対象企業（19 社）

東武鉄道、東急（注）、小田急電鉄、東日本旅客鉄道、西日本旅客鉄道、東海旅客鉄道、西武ホールディングス、阪急阪神ホールディングス、日本通運、ヤマトホールディングス、日立物流、日本郵船、商船三井、川崎汽船、九州旅客鉄道（新規）、SGホールディングス（新規）、日本航空、ANAホールディングス、近鉄エクスプレス

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）評価対象とした東京急行電鉄は、鉄道事業の分社化（子会社化）に伴い商号が変更された（2019 年 9 月）。

## 2. 評価方法

### （1） 評価基準の構成および配点

| 評価分野                            | 下記本文中の略称       | 評価項目（注）数 | 配点  |
|---------------------------------|----------------|----------|-----|
| ①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス | 経営陣の IR 姿勢等    | 6        | 34  |
| ②説明会、インタビュー、説明資料等における開示         | 説明会等           | 4        | 26  |
| ③フェア・ディスクロージャー                  | フェア・ディスクロージャー  | 2        | 10  |
| ④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示         | コーポレート・ガバナンス関連 | 5        | 18  |
| ⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示             | 自主的情報開示        | 3        | 12  |
| 計                               |                | 20       | 100 |

（注）評価項目の内容および配点は 87 頁参照

### （2） 評価実施アナリストは 21 名（所属先 19 社）である。（88 頁参照）

## 3. 評価結果

### （1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」（86 頁）参照）

- ① 本年度は、**経営陣の IR 姿勢等**ほか 2 分野において、項目の新設、内容変更、配点変更を行い、評価を実施した。また、新規の企業もある。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 64.4 点（昨年度 69.3 点）、総合評価点の標準偏差は 7.4 点（昨年度 8.3 点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を比較して見ると、高得点順に、空運（2 社：日本航空、ANA ホールディングス）77.1 点（昨年度 83.5 点）、陸運（13 社：東武鉄道、東急、小田急電鉄、東日本旅客鉄道、西日本旅客鉄道、東海旅客鉄道、西武ホールディングス、阪急阪神ホールディングス、日本通運、ヤマトホールディングス、日立物流、九州旅客鉄道、SG ホールディングス）64.2 点（昨年度 69.1 点）、海運（3 社：日本郵船、商船三井、川崎汽船）60.7 点（昨年度 64.8 点）、倉庫・運輸（1 社：近鉄エクスプレス）53.2 点（昨年度 56.7 点）となった。依然として、倉庫・運輸の企業ならびに海運および陸運の下位評価企業の全般的な改善努力が強く望まれる状況に変わりはない。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均／配点（以下省略））を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 61%（昨年度 68%）、**説明会等**が 66%（昨年度 72%）、**フェア・ディスクロージャー**が 76%（昨年度 79%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が 61%（昨年度 65%）、**自主的情報開示**が 64%（昨年度 65%）となり、全て

の分野で昨年度を下回った。

- ④ 評価項目を見ると、平均得点率で 80%以上となった項目はなく、最高でも 77%の項目が以下の 2 項目であった。

- (a) 「四半期決算の内容の理解に必要な情報（補足資料・説明会・電話会議等）が十分に開示されていますか」（平均得点率 77%）（得点率（評価点／配点（以下省略））：80%台 11 社・70%台 6 社）
- (b) 「ウェブサイトで有用な情報提供（過去の時系列データ、決算説明会資料、説明会動画・質疑応答の状況等）を行っていますか」（平均得点率 77%）（得点率：80%台 9 社・70%台 8 社）

- ⑤ 一方、次の 4 項目は、平均得点率が 50%台となり、低水準となった。

- (c) 「施設見学会・事業説明会・IR 部門以外とのミーティング等を実行的に実施し、かつその内容は充実していましたか」（平均得点率 54%）（得点率：10%台 1 社・30%台 4 社・40%台 2 社）
- (d) 「経営トップ等が決算説明会以外に、有益なミーティングの場を設定していますか」（平均得点率 56%）（得点率：20%台 3 社・30%台 1 社・40%台 1 社）
- (e) 「資本政策（資金調達、資本コスト、グループ持合政策、優先株、金庫株）に関し十分な説明がされていますか」（平均得点率 56%）（得点率：30%1 社・40%台 4 社）
- (f) 「財務情報と非財務情報を統合し、中長期的な企業価値の向上につながる開示に積極的に取り組んでいますか」（平均得点率 59%）（得点率：30%台 1 社・40%台 2 社）

- ⑥ なお、本年度に新設した下記項目については、次のとおりとなった。

- ・「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の要望を示していますか」（平均得点率 61%）（得点率：70%1 社・60%台 13 社・50%台 3 社・45%2 社）

- ⑦ また、月末に集中する決算発表・説明会について迅速化・分散化を望む声、中長期の価値評価を期待するのであれば、マネジメントレベルに加え、IR 担当においても中長期で語れるような態勢を望む声が寄せられた。

## (2) 上位 3 企業の評価概要

### 第 1 位 日本航空（ディスクロージャー優良企業〔2 回連続 2 回目〕、総合評価点 77.5 点〔昨年度比－6.6 点〕

- ① 同社は、コーポレート・ガバナンス関連（得点率（以下省略）84%）、自主的情報開示（82%）が第 1 位、経営陣の IR 姿勢等（73%）、説明会等（77%）が第 2 位、フェア・ディスクロージャーが同得点第 5 位（80%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR の基本スタンス」の「フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」が同得点第 1 位、「財務情報と非財務情報を統合し、中長期的な企業価値の向上につながる開示に積極的に取り組んでいること」および「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していること」が共に同得点第 2 位となった。一方、「経営陣の IR 姿勢」の項目（「経営トップ等が決算説明会以外に、有益なミーティングの場の設定」、「経営陣の IR 姿勢（十分な人員配置、IR 部門への権限委譲、情報集積の支援等）」）においては、それぞれ上位（同得点第 1 位、第 3 位）に評価された。また、「IR 部門の機能」の「IR 部門に十分かつ正確な情報が集積され、かつアナリストや投資家のニーズを十分理解した上で、担当者とは有益なディスカッションができること」は、昨年度の第 3 位から第 8 位に低下した。
- ③ 説明会等においては、「決算説明会等における会社側の説明および質疑応答が十分に満足できること」については、説明および質疑応答が共に、簡潔で明快であることや、説明資料等において「収益および財務分析に必要な情報が十分に記載されていること」が評価された。また、「四半期情報開示」においては、電話会議で役員が対応していることなどから、評価された。なお、航空事業の費用計画の開示を要望する声があった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていること」は、第 5 位にとどまった。また、「ウェブサイトで有用な情報提供（過去の時系列データ、決算説明会資料、説明会動画、質疑応答の状況等）を行っていること」が評価された。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「コーポレートガバナンス・コードについて、進捗状況を含め十分に説明されていること」が第 1 位に評価された。また、「重視する経営指標（例えば、営業利益率、ROE 等）とその目標、それを採用する理由が十分に説明されていること」、「中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況が十分に説明されていること」が、上位（第 1 位、同得点第 2 位）に評価された。さらに、「資本政策（資金調達、資本コスト、グループ持合政策、優先株、金庫株）に関する十分な説明」も第 1 位となった。加えて、「配当政策・自社株買いなど株主還元策に関する積極的、十分な説明」は、第 2 位以下に 13 ポイント以上の差をつけ、最も高い評価となった。これらの結果、この分野において第 1 位となった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「施設見学会・事業説明会・IR 部門以外とのミーティング等の実施」に関して、IR DAY、担当役員とのミーティング・見学会の内容が充実していることなどにより、第 1 位となった。また、「統合報告書、ファクトブック等の内容が充実していること」も評価された。これらの結果、この分野において第 1 位となった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

## **第 2 位 ANA ホールディングス（総合評価点 76.6 点〔昨年度比－6.3 点〕、昨年度第 2 位）**

- ① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（75%）、**説明会等**（78%）が第 1 位、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 1 位（81%）、**自主的情報開示**が第 2 位（81%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が第 4 位（73%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢（十分な人員配置、IR 部門への権限委譲、情報集積の支援等）」、「IR 部門に十分かつ正確な情報が集積され、かつアナリストや投資家のニーズを十分理解した上で、担当者と有益なディスカッションができること」および「財務情報と非財務情報を統合し、中長期的な企業価値の向上につながる開示に積極的に取り組んでいること」が共に最も高く評価された。また、「経営トップ等が決算説明会以外に、有益なミーティングの場を設定していること」および「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していること」が共に評価された。これらの結果、この分野において第 1 位の評価となった。
- ③ **説明会等**においては、「決算説明会等における会社側の説明および質疑応答が十分に満足できること」が評価されたことに加え、説明資料等において「収益および財務分析に必要な情報が十分に記載されていること」および「会社が採用している情報開示のセグメント別・事業別の区分けが適切であること」も共に評価された。また、「四半期情報開示」においては、電話会議で役員が対応していることなどにより、高く評価された。これらの結果、この分野において第 1 位の評価となった。なお、実績、将来予想共に、定量・定性両面から納得感のある説明ができていると評価する声のほか、航空事業の費用計画の開示を要望する声が寄せられた。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「ウェブサイトで有用な情報提供（過去の時系列データ、決算説明会資料、説明会動画、質疑応答の状況等）を行っていること」が高く評価された。一方、「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていること」が、昨年度の第 1 位（88%）から同得点第 10 位（76%）に後退した。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「コーポレートガバナンス・コードについて、進捗状況を含め十分に説明されていること」が評価された。また、「重視する経営指標（例えば、営業利益率、ROE 等）とその目標、それを採用する理由が十分に説明されていること」および「中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況が、十分に説明されていること」が共に評価された。なお、「資本政策、株主還元策等の開示」において、成長投資回収時の株主還元に関する説明が物足りないとの声が寄せられた。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「施設見学会・事業説明会・IR 部門以外とのミーティング等」に関して、「ANA グループ IR Day」、見学会の内容が充実していることなどにより、第 2 位となった。また、「統合報告書、ファクトブック等の内容が充実していること」も評価された。

### 第3位 東急（総合評価点 72.7 点〔昨年度比－4.4 点〕、昨年度第4位）

- ① 同社は、コーポレート・ガバナンス関連が同得点第2位（74%）、説明会等が第3位（75%）、自主的情報開示が第5位（73%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第5位（80%）、経営陣のIR姿勢等が第6位（68%）となった。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、「経営陣のIR姿勢（十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援等）」が同得点第1位となった。また、「IR部門に十分かつ正確な情報が集積され、かつアナリストや投資家のニーズを十分理解した上で、担当者と有益なディスカッションができること」が第2位となった。さらに、「財務情報と非財務情報を統合し、中長期的な企業価値の向上につながる開示に積極的に取り組んでいること」が同得点第2位となった。一方、「経営トップ等が決算説明会以外に、有益なミーティングの場を設定していること」は第13位となった。経営トップ等との定期的なミーティング開催を要望する声が寄せられた。
- ③ 説明会等においては、「収益および財務分析に必要な情報が十分に記載されていること」および「会社側が採用している情報開示のセグメント別・事業別の分けが適切であること」が共に評価された。また、「決算説明会等における会社側の説明および質疑応答が十分に満足できること」も評価された。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「経営陣およびIR部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていること」が、昨年度の同得点第2位（86%）から同得点第5位（78%）に後退した。また、「ウェブサイトで有用な情報提供（過去の時系列データ、決算説明会資料、説明会動画、質疑応答の状況等）を行っていること」が評価された。
- ⑤ コーポレート・ガバナンス関連においては、「重視する経営指標（例えば、営業利益率、ROE等）とその目標、それを採用する理由が十分に説明されていること」および「中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的な方策およびその後の進捗状況が、十分に説明されていること」が共に評価された。また、「資本政策（資金調達、資本コスト、グループ持合政策、優先株、金庫株）に関する十分な説明」および「配当政策・自社株買いなど株主還元策に関する積極的、十分な説明」が共に評価された。なお、資本政策に関し、資金使途を明確にし、リターンの目安を明示するなど分かりやすいとの声が寄せられた。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「統合報告書、ファクトブック等の内容が充実していること」が評価された。

### (3) 上記以外の企業についての特記事項

#### ○ 日本通運（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点 70.0 点〔昨年度比＋9.8 点、一昨年度比＋19.1 点〕、第6位〔昨年度第15位、一昨年度第18位〕

- ① 同社は、経営陣のIR姿勢等が第3位（70%）、コーポレート・ガバナンス関連が第5位（68%）、自主的情報開示が第6位（71%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第8位（79%）、説明会等が第9位（67%）となった。昨年度に比べ、全ての分野において得点率が改善し、総合評価点および順位の上昇（共に第1位）につながった。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、「経営トップ等が決算説明会以外に、有益なミーティングの場を設定していること」が同得点第1位となった。また、「フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」も同得点第1位となった。さらに、「IR部門に十分かつ正確な情報が集積され、かつアナリストや投資家のニーズを十分理解した上で、担当者として有益なディスカッションができること」が昨年度の第16位から同得点第4位に改善した。
- ③ 説明会等においては、「四半期決算の内容の理解に必要な情報が十分に開示されていること」が評価された。なお、収益および財務分析に必要な情報の改善が著しいとの声があった。
- ④ コーポレート・ガバナンス関連においては、「配当政策・自社株買いなど株主還元策に関する積極的、十分な説明」が昨年度に比べ17ポイント改善し、同得点第3位（75%）となった。これに関し、株主還元方針は明確であるとの声があった。なお、「資本政策（資金調達、資本コスト、グループ持合政策、優先株、金庫株）に関する十分な説明」は、昨年度に比べ改善したものの第6位にとどまった。これに関し、陸運で最も持合株が多く、持合解消による資本効率向上を望む声が寄せられた。

同社はこのようにディスクロージャーの改善が著しいので、「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定した。

以 上

2019年度 ディスクロージャリー評価比較総括表（運輸）

(単位:点)

| 順位 | 評価項目<br><div>評価対象企業</div> | 総合評価<br>(100点) | 1. 経営陣のIR姿勢、<br>IR部門の機能、IR<br>の基本スタンス | 2. 説明会、インタビュー、<br>説明資料等における<br>開示 | 3. フェア・ディスク<br>ロージャー | 4. コーポレート・ガバナ<br>ンスに関連する情報<br>の開示 | 5. 各業種の状況に即した<br>自主的な情報開示 | 前<br>回<br>順<br>位 |      |
|----|---------------------------|----------------|---------------------------------------|-----------------------------------|----------------------|-----------------------------------|---------------------------|------------------|------|
|    |                           |                | 評価項目6<br>(配点 34点)                     | 評価項目4<br>(配点 26点)                 | 評価項目2<br>(配点 10点)    | 評価項目5<br>(配点 18点)                 | 評価項目3<br>(配点 12点)         |                  |      |
|    |                           |                | 評価点                                   | 順位                                | 評価点                  | 順位                                | 評価点                       | 順位               |      |
| 1  | 9201 日本航空                 | 77.5           | 24.7                                  | 2                                 | 8.0                  | 5                                 | 15.1                      | 1                | 1    |
| 2  | 9202 ANAホールディングス          | 76.6           | 25.4                                  | 1                                 | 8.1                  | 1                                 | 13.1                      | 4                | 2    |
| 3  | 9005 東急                   | 72.7           | 23.1                                  | 6                                 | 8.0                  | 5                                 | 13.4                      | 2                | 4    |
| 4  | 9021 西日本旅客鉄道              | 72.1           | 23.5                                  | 4                                 | 8.1                  | 1                                 | 13.4                      | 2                | 5    |
| 5  | 9020 東日本旅客鉄道              | 70.6           | 23.0                                  | 7                                 | 8.1                  | 1                                 | 12.2                      | 6                | 3    |
| 6  | 9062 日本通運                 | 70.0           | 23.8                                  | 3                                 | 7.9                  | 8                                 | 12.3                      | 5                | 15   |
| 7  | 9024 西武ホールディングス           | 68.9           | 23.4                                  | 5                                 | 8.1                  | 1                                 | 11.2                      | 9                | 8    |
| 8  | 9104 商船三井                 | 64.2           | 22.1                                  | 8                                 | 7.5                  | 11                                | 9.7                       | 15               | 9    |
| 9  | 9143 SGホールディングス           | 64.1           | 20.4                                  | 12                                | 7.9                  | 8                                 | 10.6                      | 11               | 未実施  |
| 10 | 9007 小田急電鉄                | 63.3           | 18.9                                  | 15                                | 8.0                  | 5                                 | 11.4                      | 8                | 10   |
| 11 | 9042 阪急阪神ホールディングス         | 62.9           | 20.5                                  | 11                                | 7.4                  | 14                                | 11.7                      | 7                | 6    |
| 12 | 9142 九州旅客鉄道               | 61.1           | 19.1                                  | 14                                | 7.4                  | 14                                | 10.6                      | 11               | 未実施  |
| 13 | 9101 日本郵船                 | 60.3           | 20.6                                  | 10                                | 7.5                  | 11                                | 9.6                       | 17               | 13   |
| 14 | 9086 日立物流                 | 60.0           | 21.6                                  | 9                                 | 6.7                  | 19                                | 10.0                      | 13               | 11   |
| 15 | 9064 ヤマトホールディングス          | 59.2           | 18.8                                  | 16                                | 7.0                  | 18                                | 9.7                       | 15               | 7    |
| 16 | 9107 川崎汽船                 | 57.7           | 19.8                                  | 13                                | 7.7                  | 10                                | 8.3                       | 18               | 14   |
| 17 | 9001 東武鉄道                 | 56.4           | 16.6                                  | 17                                | 7.1                  | 17                                | 10.7                      | 10               | 12   |
| 18 | 9375 近鉄エクスプレス             | 53.2           | 15.7                                  | 19                                | 7.3                  | 16                                | 10.0                      | 13               | 17   |
| 19 | 9022 東海旅客鉄道               | 52.7           | 16.0                                  | 18                                | 7.5                  | 11                                | 5.5                       | 19               | 16   |
|    | 評価対象企業評価平均点               | 64.40          | 20.90                                 |                                   | 7.64                 |                                   | 10.97                     |                  | 7.69 |

**2019年度 評価項目および配点(運輸)**

| <b>1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス (34点)</b>                           | <b>配点</b> |
|----------------------------------------------------------------------|-----------|
| <b>(1)経営陣のIR姿勢</b>                                                   |           |
| ①全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどのように評価しますか。(十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援等)         | <b>6</b>  |
| ②経営トップ等が決算説明会以外に、有益なミーティングの場を設定していますか。                               | <b>8</b>  |
| <b>(2)IR部門の機能</b>                                                    |           |
| ・IR部門に十分かつ正確な情報が集積され、かつアナリストや投資家のニーズを十分理解した上で、担当者と有益なディスカッションができますか。 | <b>8</b>  |
| <b>(3)IRの基本スタンス</b>                                                  |           |
| ①フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていますか。      | <b>4</b>  |
| ②財務情報と非財務情報を統合し、中長期的な企業価値の向上につながる開示に積極的に取り組んでいますか。                   | <b>4</b>  |
| ③会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。    | <b>4</b>  |
| <b>2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 (26点)</b>                               | <b>配点</b> |
| <b>(1)説明会における開示</b>                                                  |           |
| ・決算説明会等における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。                              | <b>13</b> |
| <b>(2)説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示</b>                                |           |
| ①収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されていますか。                                       | <b>5</b>  |
| ②会社側が採用している情報開示のセグメント別・事業別の区分けは適切ですか。                                | <b>5</b>  |
| <b>(3)四半期情報開示</b>                                                    |           |
| ・四半期決算の内容の理解に必要な情報が十分に開示されていますか。(補足資料・説明会・電話会議等)                     | <b>3</b>  |
| <b>3. フェア・ディスクロージャー (10点)</b>                                        | <b>配点</b> |
| <b>(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢</b>                                        |           |
| ・経営陣およびIR部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか。            | <b>5</b>  |
| <b>(2)ウェブサイトにおける情報提供</b>                                             |           |
| ・ウェブサイトで有用な情報提供(過去の時系列データ、決算説明会資料、説明会動画・質疑応答の状況等)を行っていますか。           | <b>5</b>  |
| <b>4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 (18点)</b>                               | <b>配点</b> |
| <b>(1)コーポレートガバナンス・コード</b>                                            |           |
| ・コーポレートガバナンス・コードについて、進捗状況を含め十分な説明がなされていますか。                          | <b>2</b>  |
| <b>(2)目標とする経営指標等</b>                                                 |           |
| ①重視する経営指標(例えば、営業利益率、ROE等)とその目標、それを採用する理由が十分に説明されていますか。               | <b>4</b>  |
| ②中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況が、十分に説明されていますか。                  | <b>4</b>  |
| <b>(3)資本政策、株主還元策等の開示</b>                                             |           |
| ①資本政策(資金調達、資本コスト、グループ持合政策、優先株、金庫株)に関し十分な説明がされていますか。                  | <b>4</b>  |
| ②配当政策・自社株買いなど株主還元策について積極的に、十分に説明していますか。                              | <b>4</b>  |
| <b>5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 (12点)</b>                                   | <b>配点</b> |
| ①ウェブサイト、TDnet等で有益な月次情報がタイムリーかつ積極的に開示されていますか。                         | <b>4</b>  |
| ②施設見学会・事業説明会・IR部門以外とのミーティング等を積極的に実施し、かつその内容は充実していましたか。               | <b>4</b>  |
| ③統合報告書、ファクトブック等の内容は充実していますか。                                         | <b>4</b>  |

## 運輸専門部会委員

|       |       |                     |
|-------|-------|---------------------|
| 部 会 長 | 一柳 創  | 大和証券                |
| 部会長代理 | 安藤 誠悟 | 大和証券投資信託委託          |
|       | 尾坂 拓也 | モルガン・スタンレー MUFG 証券  |
|       | 鈴木 克彦 | みずほ証券               |
|       | 手塚 裕一 | 三井住友トラスト・アセットマネジメント |
|       | 原田 潤  | UBS 証券              |
|       | 姫野 良太 | JP モルガン証券           |

## 評価実施アナリスト（21名）

|        |                      |        |                     |
|--------|----------------------|--------|---------------------|
| 浅川 直騎  | 朝日ライフ アセットマネジメント     | 手塚 裕一  | 三井住友トラスト・アセットマネジメント |
| 安藤 誠悟  | 大和証券投資信託委託           | 富田 展昭  | 極東証券経済研究所           |
| 今泉 達矢  | アセットマネジメント One       | 長谷川 浩史 | SMBC 日興証券           |
| 尾坂 拓也  | モルガン・スタンレー MUFG 証券   | 原田 潤   | UBS 証券              |
| 唐木 健至  | QUICK                | 一柳 創   | 大和証券                |
| 河井 啓朗  | 明治安田アセットマネジメント       | 姫野 良太  | JP モルガン証券           |
| 坂口 真人  | 三菱 UFJ 信託銀行          | 廣兼 賢治  | 野村證券                |
| 佐々木 裕一 | アセットマネジメント One       | 宮田 幸弘  | 三菱 UFJ 信託銀行         |
| 三箇 和樹  | 三井住友 DS アセットマネジメント   | 持田 浩晃  | 丸三証券                |
| 鈴木 克彦  | みずほ証券                | 山崎 慎一  | 岡三証券                |
| 竹間 雅子  | 損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント |        |                     |

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。